

地域連携

地域連携開放講座

仁愛女子短期大学 教授 内山 秀樹

もりたエコキャンドル 2014

ことしで3回目を迎える森田地区のエコキャンドル。今年も企画段階から本番まで、生活環境専攻1、2回生の学生が、さらに卒業生までもが参加。1回生は「地域環境論」の授業の一環として、原画への応募、当日のスタッフとして参加し、環境デザイン研究室の2回生は準備段階の実行委員会などにも参加。

デザイン画は、生活環境専攻1回生の松原沙霧さんが見事最優秀賞を獲得。タイトルは『flow』で、森田のシンボル九頭竜川を大きな龍に見立て、そこに集まるサクラマスを描き、川を身近に感じるまちづくりを進めていってほ

しいという願いを込めてデザインした、との事です。他に本学からは、生活環境1回生の西端彩花さんと水野倫菜さんが優秀賞に入賞。

7月26日、会場の九頭竜川河川敷では地区の人口と同じ約1万2千個のキャンドルで、勇壮な龍の姿が浮かび上がり、見る人に感動を届けました。

うれしい出来事は、今年から本学卒業生が地元の若者団体“PRもりた”に参加し、このエコキャンドルの実行委員としてポスターのデザインや企画準備に参画するようになった事で、在学生も含めて来年も積極的に参加したいものです。



卒業生も実行委員として参加（右中）



表彰式でインタビュー（松原さん）



闇夜にうかび上がった勇壮な龍の姿

もりた夢駅～夏物語～

【JR森田駅駐輪場ペイントプロジェクト】

美しいまちづくり、活力あるまちづくり、地域の課題を解決するまちづくりについて学ぶ「地域環境論」の授業の一環として、地元森田地区の駅を中心に歩いて暮らせるまちづくりに6年前から参加してきました。駅を住民にとって身近な存在にするための取り組みの一つとして、森田地区文化委員会が5年前より「もりた夢駅～夏物語」を開催するにあたり、生活環境専攻1回生が企画、実行に参加しました。

今年、学生が6つのグループに分かれ、住民や子供達に駅に関心を持っていただく企画と駐輪場壁画のデザインを提案しました。企画については、各グループで1つに絞った結果、「もりたん電車」、「マイもりたんをつくろう」など6つの企画が提案され、準備しました。

しかし、予定していた7月13日(日)は荒天のためやむなく7月15日に延期し、地域環境論の授業時間90分間で壁画のペイントを完成させることになりました。その結果、残念ながら準備した企画は中止となりました。壁画のペイント作業には約40人の学生と森田地区文化委員会の委員、公民館関係者あわせて約50人が汗を流しました。壁画デザインは、原案を学生が6グループに分かれて考えた6案から、森田地区文化委員会で『森田の四季』に決定しました。それを地元森田在住で、かの有名なEXILEの靴のペインティングも手がけているという若手アーティスト内田徹 (THIRTEEN) さんがリライト。授業の中でもステンシル等の準備を行ったり、文化委員の方々が事前に壁画への下絵の転写などの準備をしていただい



FCTVのインタビュー



たおかげで、短時間で完了しました。また、地元の親子も前もってステンシルの手法で森田の様々な動植物を描きました。

当初、地元からは、学生提案の壁画デザインについて慎重意見もあると聞きましたが、完成してみると、森田を代表する風景が一望できて好評とのこと。来年の夏、残りの半分の秋と冬について学生から原画を募集し、完成するのが楽しみです。



いい汗かいたあとの記念写真



完成した駐輪場壁画「森田の四季」(春と夏編)